監査結果報告書

2024 年６月３日

社会福祉法人保健福祉の会　殿

監　事　北田喜美代

監　事　佐藤　晃敏

私たち監事は、社会福祉法第 40 条および関連法に基づき 2023 年度（2023 年４月１日から 2024 年３月 31 日）の監査を以下のとおり実施しましたので報告します。

監査日時　2024 年５月 31 日（金）９時 30 分～16 時 00 分
監査場所　都和のはな３階会議室
立 会 人　川原法人常務理事、小野老健西の京事務長、猪熊特養都和のはな施設長・グループホーム都和のはな管理者、和久田ケアステーション虹の家管理者、京藤青い空保育園園長、谷川あらぐさ保育園園長、竹山白い鳩保育園園長、竹内児童支援事業部長、田村法人事務員、松山西の京事務員

監査結果

１．社会福祉法人保健福祉の会の 2023 年度の財産目録及び損益計算関係書類の点検照合を行いました。違算なく合致しており適正に処理されていることを認めます。
２．法人および各事業所
（１）法人の結果

新型コロナウイルスは、５類に変更されましたが、引き続き職員や利用者、児童の感染など対応が求められました。そのなかで、利用者、職員の安全と生活を守るため奮闘している役職員の皆様に敬意を表します。

2023 年度の法人合算では、当期活動増減差額 4,857 万円の黒字となっています。予算より、3,825 万円の増益となっていますが、予定していなかった物価高騰、食料支援金を含んでいます。事業毎では、介護事業で 1,977 万円、児童支援事業 2,907 万円の黒字となり、保育事業▲1,167 万円の赤字でした。保育事業の赤字は、法人開設以来の事態であり法人を支えてきた構造が変化しています。

事業活動のサービス活動収益は 15 億 2,807 万円となり、前年より▲484 万円（前年比 98%）の減収で、予算に対しては 1,204 万円（予算比 100.8%）の超過となっています。事業毎には、介護事 1,559 万円（前年比 102%）の増収、保育事業▲3,886 万円（前年比 94%）の減収、児童支援事業 258 万円（前年比 101.8%）の増収となっています。

資金収支差額合計では、事業活動資金収支差額は 8,445 万円で、415 万円の黒字となっていますが、前年より▲3,998 万円減少しています。今期は、老健西の京・洛西保育園の大型改修等、9,363 万円の取得支出を行っています。取得手続き、資金も事業活動資金収支差額や設備資金積立の取り崩しで対応しており適切です。白い鳩保育所での賞与支払いの為に初めて人件費積立の取り崩しを行っており、運営経費の補填の為の取り崩しであり留意しておく必要があります。

財政面では、総資産は、28 億 3,933 万円で前年度より 3,349 万円の増加となっています。固定資産は、取得資産、積立金等の増加、減価償却の差引でも 2,068 万円の増加となり、負債は、５億 6,716 万円で前期より 211 万円の増加となっていますが、開設時の老健西の京の借入金は完済となりました。

法人運営では、介護事業部長の交代もありました。理事会の出席率は 100%、評議員会は 88.9%となっており、評議員の新たな選出を行いました。定期に介護事業部会・保育事業部会・児童支援部会が開催され、効率的な運営が行われています。また、保育部と児童支援部の交流も深まっています。

（２）各事業所・施設の結果

2023 年度も、介護事業・保育事業・児童支援事業の安定的な運営、利用者の立場に立つ質の高いサービスの提供や幹部職員の配置と育成・職員の育成と労働条件の整備をかかげとりくんできました。以下は、各事業分野での取り組みの結果です。各分野とも引き続き新型コロナウイルス感染症の影響をうけています。

① 介護事業

特養都和のはなでは、退所者が集中した時期に老健西の京からに入所者を確保しました。ショートステイの利用も、入所につながりました。老健西の京は、2022 年に超強化型の基準を取得し維持しています。在宅復帰率が 50%を下回る状況もありましたが、多職種が協働して必要なポイントを維持してきました。グループホーム都和のはなは、コロナのクラスターが発生のもとで死亡退所があり稼働率が低下しました。また、調理職員の退職に伴ない調理を冷凍食品に変更しています。ケアステーション虹の家は、常勤２名の体制となりましたが、非常勤職員の確保には苦戦しています。新規の利用希望者はあるものの、職員体制の不足により受入れができない状況もありました。

決算の特徴は、サービス活動収益で、特養都和のはなは、前年比 97.7%の減収、老健西の京は 106%の増収、ＧＨ都和のはなは 108%の増収、虹の家は 39.3%の減収（前年は多額の寄付金があった為）、合計で 100.6%、454 万円の増収となっています。当期活動増減差額は、特養都和のはなは▲289 万円の赤字、老健西の京は 2,242 万円の黒字、ＧＨ都和のはなは 268 万円の黒字、虹の家は▲244 万円の赤字ととなり、合計で 1,977 万円の黒字となっています。

② 保育事業

各園とも、この間制限してきた行事を再開してきました。数年にわたる中断もあり、職員や保護者も運営に苦労する面もありましたが、交流を深める取り組みとなりました。

各園の入園状況は、１か月平均で、白い鳩保育園 108 名、洛西保育園 112 名、あらぐさ保育園 58 名、青い空保育園 70 名となっています。白い鳩保育園では、106 名のスタートで、年度最終でも 109 名の確保に留まり、月平均の児童数は前年比 89.6%となりました。洛西保育園は、年度当初の０歳児の確保は４名で、年度最終でも６名でした。月平均の児童数は前年比 86.1%となりました。あらぐさ保育園では、０歳児の受け入れは７月には１０人となり職員体制も安定していました。月平均の児童数は前年比 98.5%となりました。青い空保育園は、年度当初の０歳児の確保は 10 名で、10 月には 11 名となっています。年度最終で、定員越えの 73 名の受け入れており、前年度比で 98.4%の受け入れとなっており、地域による差異もありました。

決算の特徴は、サービス活動収益で、白い鳩保育園、前年比 89.6%の減収、洛西保育園 86.1%の減収、あらぐさ保育園 98.5%の減収、青い空保育園 98.4%の減収となり、保育事業合計でも、94%　3,886 万円の減収となりました。当期期活動支差額は、白い鳩保育園▲663 万円の赤字、洛西保育園▲1,186 万円の赤字、あらぐさ保育園▲55 万円の赤字、青い空保育園 740 万円の黒字、合計で▲1,167 万円の赤字となっています。

③ 児童支援事業

京都方式が廃止され、保護者が療養を選択する状況となり、パーチェの療育を知ってもらう取り組みを進めるとともに、京都市を巻き込んだ事業所間のネットワークに構築に取り組んでいます。2024 年度の入所希望や予定者は、円町で例年より大幅に少なく、梅小路は連年通りの状況である。次年度に向けて円町の再編と南区における新規事業所の開設を目指しています。前年度より開始した発達検査は、３事業所で 57 人に実施しています。児童相談支援は、梅小路で再開していたが体制困難なため再度休止しています。

利用者状況は、パーチェ年間 2,796 名（1 日当たり 9.7 名　前年度比 96%）、第二パーチェ年間 2,811 名（1 日当たり 9.7 名　前年度比 102.1%）、パーチェ梅小路年間 2,860 名（1 日当たり 9.9 名　前年度比 105.3%）相談支援パーチェ計画相談 240 件、モニタリング 226 件（前年度比 106.2%）となっています。

サービス活動収益では、パーチェは前年比 94.8%、第二パーチェは前年比 102.8%、パーチェ梅小路 108%、相談支援パーチェ 104.3%、合計で前年比 101.8%、258 万円の増収となっています。

当期活動増減差額は、パーチェ 1,117 万円の黒字、第二パーチェ 1,002 万円の黒字、パーチェ梅小路 693 万円の黒字、相談支援事業パーチェ 93 万円、合計で 2,907 万円の黒字となっています。

以上